

成田コレクション『おうかしゅうひん櫻花聚品』について

太田原慶子¹⁾

An Illustrated Reference Book of Cherry Blossoms from Hikoei Narita Collection

Keiko OAHARA

キーワード 成田彦栄 桜図譜 佐藤薮 古今要覧稿

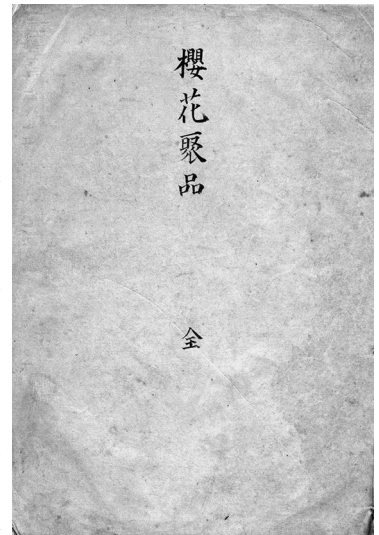
はじめに

青森県立郷土館成田彦栄コレクション²⁾中に、『櫻花聚品』という桜図譜がある(以下、郷土館本)。各地の様々な桜が品種や所在地とともに描かれた美しい彩色図譜である。それぞれの桜の特徴を細かくとらえて描かれているが、描いた人物や時代、目的などについての記載がない。

当館では、平成19年度企画展「花の肖像画 植物を描いた青森の人々」、23年度「寄贈記念 成田彦栄コレクション」展において、幕末の弘前に生まれた日本画家佐藤薮(さとうしとみ)の収集品に含まれること、薮が植物にも造詣が深く多くの植物画を描いていることなどから、彼の植物画の一つとして紹介した³⁾。薮の自筆資料として検討を進めた結果、東洋文庫⁴⁾所蔵の『櫻花聚品』(以下、東洋文庫本)と内容がほぼ同一であることが判明した。

そして、両者とも写本であり、その関係は分からないものの、原本が他に存在する可能性のあることが指摘されてきた⁵⁾。東洋文庫本も、作者や年代に関しての記述はなく作者不詳としている⁶⁾。

原本について、さらに調査を進めたところ、国学者であり蔵書家としても知られる屋代弘賢(やしひろかた)が天明年間に編集を開始した百科全書『古今要覧稿』の中に、同じ構図の桜図が多数含まれていることが分かった⁷⁾。



図① 郷土館本 表紙

『櫻花聚品』-郷土館本と東洋文庫本

郷土館本は、表紙に「櫻花聚品 全」(図①)とあり、寸法はタテ27.5cm、ヨコ19cm、本紙174枚(一覧は58ページ)。

一部彩色されない図があるが(149~151頁)、品種添え書きとともに大部分が彩色された桜図である。ただし、18・100・148・152頁の4枚は何も描かれていない(白紙)。

69・70頁の品種記載がないため、桜2点をそれぞれ別品種の桜図として数え、35頁の「小菊桜図」(図②)の下部の2弁を同じ小菊桜、60頁「鶉枝垂」、174頁「エトロフ産」桜図についても同様に同じ品種として数えると、全170枚に280の桜が描かれている。

東洋文庫本は、表紙に桜の花びらの型押し紙が用いられ、郷土館本に比べて体裁が整っている。郷土館本と内容及び順序は同じであり、「白紙」の頁数が郷土館本より2頁多いが、挿入される箇所は同じである。これは、「白紙」の頁が意図的に挟まれていることをうかがわせる。

しかし、両者を比較すると、描いた人物に技量の差があると感じる。品種添え書きの記載位置の違いも随所にみられるが、彩色の施し方などに技術的な差があるように思われるのである。また、旧蔵者については、東洋文庫本は「小澤文庫」の蔵書印から明治時代の造園家小沢主次郎(おざわけいじろう、1842~1932年)が所蔵していたことが分かっている。一方、郷土館本は、成田彦栄氏の「覚書」に、薮が書写に関わったことをうかがわせるような記述はあるが⁸⁾、両者の成立に直接的な関わりがあったことを示す資料はない。



図② 郷土館本35頁「小菊桜」

註)

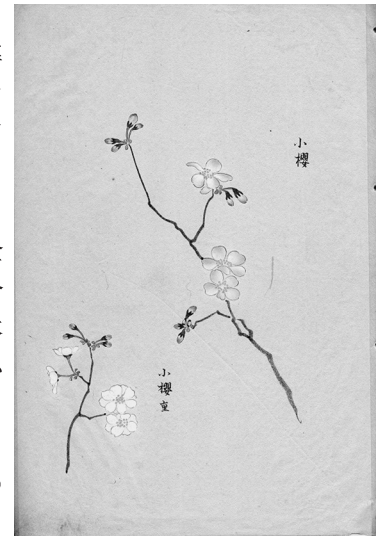
1) 青森県立郷土館 主任学芸主査(〒030-0802 青森市本町二丁目8-14)

『古今要覧稿』との関係

『古今要覧稿』は、神祇・器財・草木・禽獸・服飾などに分類され、各項目に解説と図が添えられた百科全書であり、当時の学者や画人達が協力し、屋代弘賢が中心となって編集が進められた。桜の部は草木部にあり、国立公文書館所蔵の弘賢旧蔵本では、それぞれの桜について解説とともに美しく彩色された図がある（以下、本稿での『古今要覧稿』は弘賢旧蔵本を指す）。

この彩色桜図を写し取ったものが郷土館であると考えたが、順序が一致せず、全ての図を照合するためには、桜の部全体から1点ずつ探し出す必要があった。『古今要覧稿』では、図④、「小櫻 重」⑤「小櫻」のように別の頁の桜図が、郷土館本では3頁（図③）のように組み合わせられて描かれるという状態もみられた。また、「小櫻」図については、一部省略された形で描かれている。

これは、『古今要覧稿』そのものから桜図を拾い出して写し取ったのではなく、編集以前のもの、もしくは別の形で存在する桜図譜集が元になった可能性があるのではないかと考えた。



図③郷土館本3頁「小櫻 小櫻重」



図④



図⑤

図④・⑤ 国立公文書館所蔵『古今要覧稿』草木部十一十二中の「小櫻重」(④)「小櫻」(⑤)。調査時に筆者撮影。

別の頁の桜図が、郷土館本では上(図③)のように同じ頁に組み合わせられた形で描かれている。また、「小櫻」については、一部省略されていることが分かる。

『古今要覧稿』の桜図については、桜の研究者であり、桜資料の収集家としても知られる三好学の詳細な研究がある⁹⁾。三好は、現在宮内庁書陵部に所蔵されている『花譜』（文化年間に成立）の桜図の多くが、『古今要覧稿』に引用されていることを詳細に検証している。

三好が整理している『花譜』の桜図分類を参考に、改めて郷土館本の内容を確認してみると、ある一定のまとまりごとに桜図の順序が一致していることに気付いた¹⁰⁾。挿入される白紙4頁それぞれが、『花譜』での「帖」（一冊）の区切りになっているのである。『花譜』は、6点（「花譜」「続花譜上」「続花譜下」「又続花譜」「附桜詩歌」「追加花譜」）で構成されているが、その桜図全てが各帖ごとの順序を保った形で郷土館本に反映されているのである。整理すると次のようになる。

- 「郷土館本」 1～17頁… 「花譜」
- (18頁 白紙)
- 19～68頁… 「続花譜上」
- 69～99頁… 「又続花譜」
- (100頁 白紙)
- 101～138頁・149～151頁… 「続花譜下」
- (152頁 白紙)
- 139～147頁… 「追加花譜」
- (148頁 白紙)
- ※153～174頁… 『古今要覧稿』のみ

郷土館本1頁から152頁の図は『花譜』と同じ内容である¹¹⁾。153頁から174頁分は、『花譜』にはないが、『古今要覧稿』にあることが確認できた。したがって、郷土館本は『花譜』と『古今要覧稿』両者の影響を受け成立した写本であるといえるだろう。さらに両者の桜図を一つにまとめた図譜が作られ、それを元としている可能性も考えられる。

『古今要覧稿』の編集を進める弘賢は、様々な資料や情報を集めている。桜については、『花譜』から多くを引用し整理が進められた。その段階で桜図のみを写し取った図譜が成立したのではないだろうか。そして様々な人により転写がくりかえされていったと考えられる。

終わりに

今回の調査で、郷土館本及び東洋文庫本は、江戸時代後期に成立した『花譜』と『古今要覧稿』の桜図が元になっていることが分かった。両者とも当時の桜研究を反映している非常に貴重な桜図譜であるといえる。

『古今要覧稿』をまとめた弘賢は、国学者平田篤胤（ひらたあつたね、1776～1843年）と、そして、葎の師平尾魯仙は、平田家と交流があった。また、成田コレクション中には、弘賢門下にいた武具や馬具の研究者栗原信充（くりはらのぶみつ、1794～1870年）¹²⁾が著した図入りの解説書を、魯仙、葎が写し再編集した『甲冑図式』『刀剣図式』等がある¹³⁾。弘賢や信充の様々な資料を、魯仙は平田家を介して知ることは可能であっただろう。郷土館本の成立もここにあるのではないかと考えられるが、具体的にどのような方法で元となる書物や図譜類を入手し、写す機会を得たのかは現在のところ分からない。手がかりを得るためには、魯仙や葎による写本資料等について、それぞれ原本を確認し詳細に比較検討する必要があるだろう。

謝辞

財団法人東洋文庫櫻井徹氏、須坂市立博物館豊田優子氏には資料提供などご協力いただきました。本田伸氏、鹿内史氏には、様々な角度からご教示いただきました。あらためてお礼申し上げます。

註

2) 佐藤葎（さとうしとみ 1852-1944年 歴史、植物学者、日本画家。幕末から明治初期にかけての弘前画壇の中心にいた平尾魯仙の弟子、仙之。考古資料を描いた「考古図譜」や多くの植物画がある）の収集品を引き継いだ青森市の医師成田彦栄氏（1898-1959年）のコレクションである。（平尾魯仙については、当館特別展図録『平尾魯仙 青森のダ・ヴィンチ』2013年参照）

3) 青森県立郷土館企画展展示図録『花の肖像画 植物を描いた青森の人々』（2007年）24-25頁、同図録『寄贈記念 成田彦栄コレクション展選』（2012年）73頁

4) 財団法人東洋文庫（東京都駒込）。三菱第三代当主岩崎久弥（1865～1955年）が設立した図書館。国宝、重要文化財を含む約100万冊の蔵書数を誇る。

5) 前掲(3)図録16頁他

6) 『時空をこえる 本の旅50選』（2010年）80-81頁 財団法人東洋文庫発行

7) 古今要覧稿自体は、天保13年（1842）までに560冊が幕府に献上されたが、そのすべてが火災で焼失している。実見し比較したのは、国立公文書館所蔵の屋代弘賢（1758～1841年）の旧蔵本『古今要覧稿』（請求番号 特65-0001）。

8) 「成田彦栄氏覚書」（弘前大学所蔵）、前掲(3)図録『寄贈記念 成田彦栄コレクション展選』73頁ほか

9) 「市橋長昭撰花譜の解題並に其文献的価値」ほか（三好学『櫻』富山房1938年）

10) 『花譜』は宮内庁書陵部所蔵資料目録画像公開システムにより全画帖全頁が公開されている。

11) 『花譜』の影響を受け成立した桜図譜には、須坂市立博物館が所蔵する『爰譜（じゃくふ）』がある。文久元年（1861）成立の須坂藩主堀直虎による写本で、青木歳幸「須坂市立博物館所蔵『爰譜』の系譜」（長野県立歴史館研究紀要第5号 1999年）、涌井二夫「史料紹介 須坂市立博物館蔵本『爰譜』の系譜と序文」『須高』第59号）で、内容とその系譜について詳細な検証がされている。

12) 『森銚三著作集第7巻人物編』中央公論社 1989年、秋田市立赤れんが郷土館図録「秋田の先人平田篤胤大人展図録」1989年ほか

13) 前掲(3)図録『寄贈記念 成田彦栄コレクション展選』（2012年）70-71頁

◇「櫻花聚品」桜図一覧

1 小櫻、小櫻重	44 逆手櫻、変種逆手	87 田町八幡櫻、姥櫻、姥櫻	130 有明櫻	(彩色なし)
2 絲櫻重、小櫻紅	45 名島櫻、異種帆掛櫻	88 大奈天、伊勢櫻	131 人丸櫻、異種普賢象	152 (白紙)
3 絲櫻	46 異種帆掛櫻、帆掛櫻	89 深川八幡櫻、雀櫻	132 九品櫻	153 犬櫻東叡山、日光山中禪寺櫻
4 山櫻、山櫻青葉	47 異種帆掛、帆立櫻	90 深川八幡櫻、八幡櫻	133 変種延命、小南殿	154 異種山桜又曰遠川類、薄墨櫻
5 小山櫻、芳野	48 糸括	91 玉兔櫻、爪紅奈天	134 延命、遅櫻	155 藏王杜之種即樺櫻之根元
6 八重山櫻、塩竈、玉王	49 白玉、芝山桜	92 南殿、紅葉奈天	135 変種長崎	156 上野田正覚寺之種即樺櫻別種、本郡内池照光寺之種即樺櫻別種
7 伊勢、江戸櫻	50 小手毬	93 水紅毬、千鳥櫻	136 長崎	157 楊貴妃占風園、同上
8 江戸単、桐谷	51 異種旗櫻、変種提燈	94 碧玉櫻、色奈天	137 泰山府君	158 本郡櫻塚即楊貴妃之變種自本櫻塚楊貴妃之一名
9 虎尾、虎尾単	52 変種便殿、異種婆櫻	95 江戸櫻、胡蝶櫻	138 変種泰山府君、変種泰山府君	159 大手毬
10 大膳、地主	53 八重便殿、変種便殿	96 平安左近櫻	139 品川大井村名主貫藏 大野氏今称五藏 園命櫻 事詳 千四神地名録 古河平次兵衛著及台命櫻記 大野五藏撰者	160 句櫻 松平備後守庭樹
11 浅黄、浅黄重、句櫻	54 單便殿	97 日野呉氏園	140 品川来福寺内兒櫻 与随在称兒櫻異	161 句櫻 興板侯別業其原在吹上御園
12 普賢堂、廊間	55 小提燈、旗櫻	98 中野小林氏園	141 品川西興寺内浅黄櫻 与近世所称浅黄異顧怡顔齋品所載浅黄是也	162 句櫻 吉野山種平塚氏庭樹
13 時雨、金龍寺	56 江戸法輪寺	99 八重絲櫻之变	142 品川興福寺内櫻 似單辨非單辨似重辨非重辨 一花六七辨乃至八辨 無十辨者	163 句櫻二種 尾島氏庭樹、岡村氏庭樹
14 奈良都、曙	57 大提燈	100 (白紙)	143 本莊龟井戸本多屋鋪百姓本多伊兵衛宅香櫻 本年移于我園	164 泰山府君 掛川侯千駄木別荘
15 常盤、樺	58 鳳来寺	101 変種八重櫻、変種嵐山	144 前所前人家別種香櫻 本年亦移于我園	165 真普賢象櫻六ノ櫻種類、塩竈
16 三芳野、有明	59 鴨櫻	102 樺櫻、薄墨櫻	145 庄内侯柳原部園中 重辯櫻案是泰山府君之別種 枝幹葉萼全同唯辨多心中両鬚長短並出為異也	166 菊奈天類、谷越尾張殿市谷邸内有香蓋句櫻之種類
17 法轉寺	60 鴨枝垂	103 單鷲尾、八重鷲尾	146 初重 我国中七八年前所移白花單辨至于本年初為重辨仍命曰波都加佐福凡櫻種單重相交開者經年応久則盡為重辨是亦因木老為重辨者不足怪焉	167 宮川侯赤芳櫻
18 (白紙)	61 山川櫻	104 嵐山、変種鷲尾	147 品川来福寺安富櫻	168 栖霞 占風園元禄年移栖霞峯之種故名云、紫宸殿左近櫻
19 寒緋櫻、異種彼岸	62 変種山川櫻	105 海棠櫻	148 (白紙)	169 越前
20 八重彼岸、單彼岸	63 薄櫻	106 変種樺櫻、薺金櫻	149 敵島姥櫻、白井峠櫻、箱根櫻 (彩色なし)	170 八重垣
21 節会櫻	64 婆桜異種、松川	107 異種浅黄、駒留櫻	150 南殿御庭櫻、象潟西行櫻 (彩色なし)	171 十月櫻 脇坂中務大輔庭中
22 三度櫻、不断櫻	65 遠川	108 夜乃雪、單西行	151 芳野櫻、寧楽八重櫻	172 十月櫻
23 千本櫻、異種熊谷	66 九重櫻	109 照月、菊奈天		173 観音櫻、大船
24 異種千本櫻、熊谷、婆彼岸	67 八重櫻	110 八重西行、薄樺櫻		174 エトロフ産 文化十二年己亥四月念八日満開
25 百枝櫻	68 異種塩竈	111 奥州南天、変種一葉		[註]
26 八重兒櫻	69 (記載なし)	112 一葉、右衛門櫻		※櫻名の前の番号は頁番号で筆者がつけた。
27 單兒櫻、牡丹	70 (記載なし)	113 小枝垂、大枝垂		※「變」は「変」に統一した。
28 春日野、変種牡丹	71 玉盤櫻、玉堂櫻	114 変種須磨、須磨		
29 異種楊貴妃	72 来福寺車返、羅櫻	115 雪乃山		
30 異種楊貴妃	73 鶴岡櫻、奈天櫻	116 白妙、墨田川堤上櫻		
31 楊貴妃、異種楊貴妃	74 芍薬櫻、酔胭脂	117 金玉櫻、雪山		
32 單楊貴妃、墨染	75 美人櫻、平頭櫻、緋櫻	118 澁谷金玉櫻、墨田川堤上櫻		
33 変種墨染、変種山桜	76 残雪櫻、深山櫻	119 浅黄塩竈、墨田川堤上櫻		
34 異種大膳櫻	77 深山隠	120 御殿山櫻		
35 小菊櫻	78 八幡太郎旗櫻、粉辨櫻	121 御殿山櫻		
36 変種大膳、変種墨染	79 映日櫻、美人紅	122 飛鳥山櫻		
37 変種山櫻、変種逆手	80 風尾櫻、駒繫櫻	123 御殿山櫻、拾櫻		
38 変種山櫻、変種山櫻	81 金絲櫻、上野白櫻	124 紅普賢象、変種虎尾		
39 変種山櫻、変種山櫻	82 白山櫻、神田明神櫻	125 備後三郎題詩櫻		
40 変種山櫻、変種山櫻	83 壽春櫻、芭蕉堂櫻	126 変種伊勢		
41 変種山櫻、外山櫻	84 夕霞、殿櫻	127 変種虎尾		
42 変種山櫻、変種帆掛櫻	85 秋色櫻、殿櫻	128 醍醐櫻、穴八幡櫻		
43 大手毬、変種小手毬	86 上野句櫻、上野櫻	129 八景台		